

令和6年度 能勢町子ども・子育て会議（第1回）
議事録

日 時：令和6年7月18日(木)10:00～12:00
会 場：保健福祉センター 2階多目的室
出席者：小泉委員・前田委員・安田委員・三浦委員・樺山委員・布村委員・森下委員 ・宇佐美委員・北山委員・堀内委員・的場委員・村本委員・八木委員 【計13名】
欠席者：齋藤委員 【計1名】
オブザーバー：大阪府箕面子ども家庭センター 北村委員 【計1名】
傍聴者：1名
事務局：上森町長（途中退席） 福祉部 寺内部長、和田課長、菊池課長、瀬川参事、永田 【計5名】 教育委員会 百々次長、川本課長、古畑課長、奥課長 【計4名】 委託事業者 株式会社ジャス(1名)

次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 案件
 - ①会長、副会長の選任について
 - ②能勢町子ども・子育て支援事業計画の本年度目標について
 - ③次期計画策定に向けた量の見込み（試算値）の速報について
 - ④その他
5. 閉会

司会	本日はお忙しい中ご出席賜り誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より令和6年度第1回能勢町子ども・子育て会議を開催させていただきます。 本日の会議は委員改選後、初めての会議です。事務局において会長選出までの進行を務めます。 初めに、会議の開催に当たりまして、能勢町長・上森一成よりご挨拶申し上げます。
----	---

町長	おはようございます。ご紹介いただきました、町長の上森です。令和6年度第1回能勢町子ども・子育て会議にご参加ありがとうございます。いよいよ梅雨明けとなります、まずはお身体ご自愛ください。申すまでもありませんが、子ども・子育てを取り巻く環境は非常に厳しくなっています。一概にコロナ禍だったことが原因とは言えませんが、合計特殊出生率は全国で1.2、東京都で0.99という結果です。能勢町を例にすると、交通の不便などを理由に、特に若い方が都会へ出て行かれますが、その都会の中の都会、東京都においても出生率0.99という現状が、この国全体の子育ての難しさを表しているように思います。 今回、第3次の子ども・子育て支援事業計画を検討いただくわけですが、能勢町においても少子化が進行している中で、本町の置かれている状況を検討いただき、今後の子育てがどうあるべきかを計画いただきたいと思います。どうかこの場で、いろんな観点・角度からご意見頂戴いただきますことをお願い申し上げまして、会議開催の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
司会	では、会議に入ります前に、事務局より説明です。 本会議につきましては、会議録を作成し公開することとなっておりますので、ご了解いただきたいと思います。 次に能勢町子ども・子育て会議の委員委嘱の件です。皆さまには、令和6年6月1日付で委嘱状を送付しています。任期は6月1日から2年間です。 また、会議案内の際に委員報酬振込口座申出書を同封しておりました方は、会議終了後、事務局まで提出をお願いします。 次に、配布資料の確認です。事前に郵送している資料は、 資料1：能勢町子ども・子育て会議委員名簿 資料2：能勢町子ども・子育て会議設置条例 資料3：令和6年度子ども・子育て支援事業計画 資料4：幼児期の教育・保育の実施状況と子ども・子育て支援事業の供給体制 資料5：「次期能勢町子ども・子育て支援事業計画」策定に関する事業量の見込み算定資料 資料6：令和5年度「次期能勢町子ども・子育て支援事業計画」策定に関するニーズ調査集計結果報告

	これらを全員にお送りしております。また、席に次第とともに置いておりますのが、 参考資料１：家庭教育情報誌『ほっこり』第２２号 参考資料２：令和６年度親と子のりらくすたいむ『tsu★do★i』 参考資料３：夏のイベント情報 資料の漏れ等ありましたらお申し出ください。 最後に能勢町子ども・子育て会議につきまして説明をいたします。この会議の設置根拠は、配布資料２をご覧ください。 本会議は子ども・子育て支援法第７２条第１項の規定に基づき、能勢町子ども・子育て会議設置条例により設置しております。この会議の所掌義務は、 ・特定教育・保育施設等の利用定員に関すること ・本町の子ども・子育て支援事業計画に関すること ・本町の子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し必要な事項等 となっております。現在の第２次子ども・子育て支援事業計画については、計画期間が令和２年度から令和６年度までの５年間となっており、本年度末の第３次計画策定に向け、今後協議をお願いしたいと考えています。 次期計画に向けて、前年度からニーズ調査等を実施しており、本年３月の会議ではニーズ調査結果の速報値や、子どもの生活に関する実態調査の結果などもお示しさせていただきました。今年度から新たに委員となられた方には、３月に開催した際の資料を参考として同封しておりますので、説明は割愛させていただきますが、ご確認をお願いいたします。 それでは資料１を確認ください。 本会議は、委員改選後初めての会議となります。ここで委員の皆さまより自己紹介をお願いします。
各委員	（自己紹介）
司会	引き続き、事務局の自己紹介をいたします。
事務局	（自己紹介）
司会	本日、体調不良で福祉課福祉担当係長が欠席です。 それでは、案件①「会長・副会長の選出について」、設置条例第５

	条では互選となっております。ご意見ございますか。
委員	「事務局一任」
司会	ありがとうございます。事務局一任のお声が上がりましたので、事務局の案を申し上げます。 会長については学識経験者より選出の大阪大学大学院教授・樺山委員に、副会長は能勢町民生委員児童委員協議会より選出の村本委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか？ (拍手) ありがとうございます。それでは、樺山委員、村本委員、よろしく申し上げます。会長席、副会長席へご移動をお願いします。 それでは代表して樺山会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。
会長	皆さん、改めまして大阪大学の樺山です。再任いたしましたので、引き続き頑張って努めてまいります。7月上旬にタイのマヒドン大学看護学部の大学院の学生さん7名が能勢の福祉施設の見学に來られました。タイは急速に高齢化が進む一方で、子どももたくさん出生している国ですが、日本の急速な高齢化から学びたいと考えるアジア圏の学生からの見学希望が多くなってきています。 タイは医療の充実や地域のサポート体制、福祉がまだまだであることを実感しておられ、特に皆が自分の健康への意識があり、医療体制など日々安心感をもって生活をされていることに感銘を受けておられました。 タイの学生たちは、能勢の高齢者のお声を見聞きして、自分たちで自分の街をどうにかしようという意識と、幸せで安心して暮らせるという見えないサポート感や安心感が大事だと学んでいかれました。 能勢町は少し不便で、子どもを産み育てるにも難しい部分もあるかもしれない一方で、住民さんたち同士で支え、良いところを生かしながら過ごせる強みもあると改めて実感しました。是非、皆さんと能勢の良さを生かした子育てを考えていけたらと思います。 長くなりましたが、委員の皆さまよろしく願いいたします。
司会	会長、ありがとうございました。ここで上森町長は公務のため退席されます。 それでは、これよりの進行については、設置条例第6条の規定に

	より、会長にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。
会長	案件②能勢町子ども・子育て支援事業計画の本年度目標について、事務局より説明をお願いします。
事務局	それでは案件の2つ目能勢町子ども・子育て支援事業計画の本年度目標等について、事前に配布しております資料3と4を使って説明をさせていただきます。 (資料説明) 案件②の説明は以上とさせていただきます。ありがとうございます。
会長	ありがとうございます。ただ今、事務局より説明いただきましたが、何かご質問、ご意見、確認事項などございませんか？ 私からで申し訳ありません。 確認ですが、ファミリーサポートセンター事業の見込み量が、非常に減少しているのですが？
事務局	ファミリーサポートセンター事業につきましては、実績と見込みにかい離があります。6年度見込みについては、あくまでも第2次子ども・子育て支援事業計画で見込んでいた数字であり、前回（今年度末）までの計画値です。ただ、実際の人数は多くはありませんが、同じ方が複数回利用されることが多く、実績が大きく伸びているのが現状です。
会長	ありがとうございます。 それでは質問等もございませんので、案件③「次期計画策定に向けた量の見込み（試算値）の速報について」事務局よりお願いいたします。
事務局	案件③「次期計画策定に向けた量の見込み（試算値）の速報について」、ご説明をいたします。資料5をご覧ください。 (資料説明) 資料についての説明は以上になります。よろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。ただ今、事務局より説明がありました。

	数字が並んで読みこなせない部分もあるかもしれませんが、何かご質問、ご意見ありますでしょうか？
委員	この数字を見ていると、現在の子どもの様子が変化してきているのが見えてきます。子どもの成長、家庭教育について、私たち大人がどのように考えていけるかという部分に視点を当てていきたいと思います。 一番心配なのは子どものけが。生活のリズム、バランスが崩れ、当園でも、特に3歳児までの小さな子どもが、月に1回2回と、小さいけれども顔面の口回りや鼻回りにけがをしています。全体的に子どもの体力低下、幼児期乳児期のハイハイできない、運動時いざというとき手が出ない幼稚園児が増えてきており、成長発達に変化が起きていることが気になります。こういった現状を踏まえ、何ができるかと考えたとき、子どもは大人や環境を選ぶことができませんので、大人は子どもの受け皿として、子どもに対してベストな環境づくりをするかということが大事になると考えます。 私も今回のアンケートを自分の子育て世代だったときの考えで回答してみたとき、今回の結果とかけ離れたものになりましたことから、もっと意識レベルをそろえないといけないと思いました。 昨今の経済を考える中で、女性の就労が経済を担う部分は大きく、そのため、子どもが家庭教育や学校教育の中など、至るところで自立や自主性を強くうたわれることも増えています。しかし、それ以前に子どもの発達について、親がきちんと所作を教えなければ、子どもは上手に育つことができないと考えています。今回の結果を踏まえ、家庭教育を原点に戻り、親御さんと一緒に作業、子育てしていかななくてはならないと改めて感じました。 25ページ12－3親子関係形成支援事業により、何をしていかななくてはならないのかという具体策の結果は出ました。次はこの実感が計画で終わらないように、医師、教師、保育士、民生委員など子どもを取り巻く皆の実践が必要だと感じます。 0歳からの養育・教育のイメージをしっかりと持ち、能勢町内で唯一の幼稚園である、みどり丘幼稚園が率先すべく、教職員にも今日の話をしていきたいと思います。 もう一点、本日2時から大阪府の子育て支援制度の会議があり、能勢町の子育て支援策を発表することになっていますので、本日の資料を使わせていただくことをご了承ください。有効に使わせていただきたいと思います。

	本日はありがとうございます。お礼申し上げます。
会長	実情を踏まえて、現場の最前線で接していかないと分からない部分を伺い、数だけではなく熱意と未来をもって考えていかななくてはいけないと感じました。ありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。委員のお話のとおり、発達状況に応じて教育していくのは重要だと思っています。本町でも、のせ保育所では『能勢っ子！かけっこ！日本一！』という体力づくりにも取り組んでいる最中です。 先ほどの、25ページの親子関係形成支援事業については、どちらかという要保護・要支援児童と保護者向けのトレーニングや支援事業で、主旨から外れてくるかと思います。今回の調査の結果を踏まえて、これから施策を展開していくわけで、今現状、家庭教育支援事業などを通じて、家庭教育の支援に努めているところで、今後、町施策全体としては発達状況に応じた支援をしていくことが必要とは考えています。それを含めて、次の計画を進めていきたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。
会長	ありがとうございます。子育てに関わる皆さんに、コメントなどいただけませんか。
委員	意見になります。梅雨時期、夏休み時期は、子育て支援としては通園している幼稚園を利用することが多いのですが、保育所の所庭開放など予約が必要であり、毎回お友達を誘って行けるわけでもなく、先生方もお忙しいこともありいらっしやらないことが多いので、結局、子どもと二人で遊ぶことになります。もう少し気軽に利用できる場所を増やしてほしいと思います。
会長	受け皿はあるけれども、どれだけ利用しやすくするかというのは、非常に大事なことだと思います。
事務局	ありがとうございます。今、保育所など事前に予約の一報を入れていただいてからという形になっているのは、お手間になってしまい申し訳ないと思います。どなたでも利用可能というのは、公園などでは問題ないでしょうが、保育所の中ということで、保安上の問題から一定の確認をしております。ご理解いただければと思います。
会長	ありがとうございます。管理運営の問題もありますが、少しの工夫で使いやすさも変わるかと思います。資料上は、利用数が増えていると感じますが、もしかしたらリピーターの方がたくさんで実数が増えていないのかもしれませんが。リピーターが利用いただくのは

	もちろん大事ですが、使ってみたいと思っている方が新しく使う、誰かに誘われて気軽に利用できる、そうやって裾野が広がることもとても大事だと思います。 今回のアンケートを拝見して、数として表れてこない方々の声も想像しながら、利用できていない方々を利用できるようにしていく、ということも一步ずつ意識されることも大事だとか思っていたところなので、今の声もぜひ反映させていただけるとありがたいと思います。
事務局	今、会長からお話があったとおり、確かに実績は上がっていても、実人数としては同じ方の利用も多いと思います。プレイルームの一般開放など人数は増えていても、実際には同じ方が来ていることはあるかと思います。今後、町としては、同じ方の利用に加え、それ以外の方にどれだけ広げていけるかという視点は大事かと思いますので、忘れないように反映させていきたいと思います。
会長	ありがとうございました。
委員	私は今、のせ保育所に2人の子どもを預けており、今3人目を妊娠していて、仕事もしています。 要望になりますが、私たち親世代でよく話しているのは、室内遊び場で土日に空いているところや、広い公園などが欲しいと思います。ここのプレイルームも利用させていただいたことはありますが平日に限られており、仕事は土日休みが多いため、結局、一庫公園や少し遠いのですが亀岡や猪名川に行っているのが現実です。 予算の関係もあるとは思いますが、能勢町は学校も統廃合されて空き学校もあるので、丹波篠山市などで取り組まれている、廃校を利用した子どもの遊び場などに活用できないでしょうか。町民は安く利用でき、町外の人でも利用可能な施設だと町自体に活気も生まれ、そこで働く人も増えることで町内の経済も回るかもしれません。 住民側の意見であり、難しいことも多いと思いますが、今後検討いただきたいと思いご意見させていただきました。
事務局	貴重なご意見ありがとうございました。今回ニーズ調査を行った中でも、遊び場がないという声、意見の記載が多かったところです。外での遊び場はもちろんですし、室内の遊び場が欲しいというご意見がたくさんありました。 現時点で、室内・室外の遊び場をこうしていくとは申し上げにくいですが、委員からやニーズ調査のご意見を踏まえて次の計画につ

	なげていき、どこまで実現可能かは分かりませんが、今後の計画に生かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
委員	遊び場の問題ですが、町は盛りだくさんのメニューで皆さんに提供して下さっていますが、それは利用価値としてどうでしょうか？制約、例えば予約・時間制限などがあるから利用しにくいのでしょうか？親子が遊ぶとはどういうことかを考えたときに、室内・室外という遊ぶ環境が設定されていて、そこで遊びを作り出すのは親子自身だと思います。 材料づくりのために、専門家を呼んでイベントを行う訳ですが、能勢町はそのメニューをもう少し精査しないと、選ぶ方が迷うぐらい盛りだくさんで、あれもこれもと参加すると子どもがそれぞれに集中できない状況になっています。 今日、所庭開放の話が出ましたが、幼稚園・保育所は管理や安全対策の義務がありますから利用者の名前は書かなくてはなりません。人事管理として、土日開放する場合は先生を出勤させなければなりません。今の労働時間では先生方を働かせると違反になります。ここで矛盾が生じています。それを解決させるには、一般的に考えると、何の制約もない大きな公園があると良いので、亀岡運動公園や一庫公園の利用価値が高くなってきます。能勢町にも昔は有ったのですが今は消滅してしまい、こういった点も、私が子育てしていた時代と、今の子育て世代とでのギャップを痛いほど感じます。 今は子育て環境として非常に窮屈です。窮屈だからお母さんもストレスがたまり、学校などに文句を言いたくなるのだと思います。 まずは、保育所や幼稚園など垣根を取って、ちょっと名前を書いて園庭をどんどん利用してください。
会長	ありがとうございます。まずは今あるものをうまく使っていく仕組みがちょっとだけ変わると、充実していく部分もあると思います。少しずつでも変えていかなくてはならないと感じます。町の方からもございますか。
事務局	ありがとうございます。委員がおっしゃいましたように、いろんな事業を展開していく中で、どんどん広げていくのは町としても正直難しいことです。大きな公園・施設はもちろん魅力的ですが、ランニングコストを考えたときに、限られた財政の中でどこまでのことができるか？というのは、今の事業を含めて全体で考えないといけないという認識でおります。

委員	去年、大阪市内から引っ越ししてきて、能勢はイベントも多く子育てしやすいところも多いと思いますが、今後のことを考えたときに、移住する人を増やさないと、子どもを産む人が少ない状況が続くと思います。 子育て支援という点で見ると、亀岡の方が充実しているので移住を考えたときに亀岡が選ばれがちです。能勢を選んでもらえるためには、もっと他と差別化できるところをアピールし「能勢に来たい！」と思わせる子育て支援に手を入れたら良いのではないかと思います。 例えば、給食ですが子どもはおいしいと言っていますが、個人的には品数が少なく残念に思います。特別なお金をかけなくても、能勢という地域柄や特性を生かし、地産地消やオーガニック野菜など良さを前面に打ち出しアピールできる内容にするなど、いろいろなやり方があると思います。そういった能勢の魅力、能勢に来たいと思った部分を、もっと移住してきた人に聞いてほしいと思います。 もう一点は、ファミリーサポート事業に関して、支援を受けたいけれどもマッチングしないという話を知り合いから聞きました。最近ほとんどマッチングした人はいない状況だと聞きましたので、支援したいという方がいらないのか、どういう状況になっているのか教えてください。また、この支援も小学校3年生までしか受けられないので、4年生以降の支援について町としてどうお考えかお聞かせください。
事務局	まず、能勢のPRのところで話をしますと、保育所や小学校の給食無償化を実施し、経済的なところは進めていますが、限られた財政の中でどこまでできるのか、となるとなかなか難しい部分もあります。それであれば、もっと金銭的でない能勢のPRをしていった方が良いのではないかというご意見かと思います。 町としては国の補助金も含めて、予算の範囲内でないと事業ができませんので、むしろそういったところに力を入れていった方が良いというのは、非常に貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。 今後法改正で、子どもの意見を聞く機会の充実や、意見の尊重が重要になってきますので、町民の幅広い意見を聞くのが重要かと思っています。
事務局	ファミリーサポートについて、なかなかマッチングしない点についてです。コロナが流行していた頃については、依頼があっても受

	けられる方もご家庭に高齢者がいらっしゃる等事情があり、マッチングがうまくいかなかった事例は確かに聞いております。 依頼会員・提供会員・両方会員の3パターンありますが、どうしても提供会員さんの人数が少ない傾向にあります。実際に登録されている方は多いのですが、実働の部分で動いていただきにくい方も多くなっているため、今年度、整理を行っていきます。 具体的には、登録だけはしているが、なかなか実働いただけない方は、一旦登録から外させていただいて、実際に動ける方だけを絞り込んで、応じていただける依頼を再度整理する動きを進めています。 どうしても365日いつでもOKの方ばかりではなく、自分が空いている時間で依頼があれば受けますという方もいらっしゃるのので、希望される日とマッチングしないというのはあり得ます。提供会員さんが増えていけば、希望がかなう確率は上がってくるかと思えますので、まずは会員さんの整理を進めニーズに応えていきたいと考えています。
委員	ファミリーサポートは現状1時間500円で依頼・提供するシステムですが、補助など金銭的なもので提供会員にもう少し上乗せできないものでしょうか。提供会員は500円で子どもを預かるリスクがあると思いますので、金銭的な補助で提供会員が増えるきっかけになるかもしれません。
事務局	現在の制度としては、依頼側から提供側に直接費用を支払うシステムとなっています。できるだけ利用したいと思う人が払いやすい金額設定でスタートしたため他の市町村に比べても低価格であると思います。今のご意見、貴重なご意見として頂戴したいと思います。 ありがとうございます。
会長	ありがとうございました。実働できない方が金額の見直しで変わるのかを把握してみるのもあるかと思いました。貴重なご意見ありがとうございます。
委員	就労状況の9ページ比較について、私自身、平成30年の時点で能勢町に勤務していたので、この5年くらいで相当、働く親御さん世帯が増えた実感として感じます。 患者さんの親御さんが働いている方、また、病後児保育も利用はまだ少ないですができました。働きやすいから働く人が増えたのか、働かないといけない経済状況があるからこうなっているのか

	は、この表からは読み取れませんが、一方で、22ページの親が休んだ割合が増加しています。子どもが病気をしたら休まないといけない働き続けにくい環境であるのか、若しくは職場が休ませてくれる環境になったという社会情勢の変化も考えられますが、自分自身もフルタイムで働き、妻はパートタイムで働いて、子どもに何かあれば基本的には妻が動いてくれますが、夫婦葛藤しながらの子育てが現状です。 委員のお話にあったように、家庭での子どもの教育は非常に大事であり、一方で子育て世代の親の気持ちとして、自己実現や社会活動参加などは親世代が生きていく上で大事な要素です。子育てに専念できる環境も欲しいけれど、社会に出て自分が何かの役に立っていくことが実現できるまちづくり、それも、子育てしやすいの一つではないかと思います。子どもの教育ももちろん大事、子どもを育てる親世代が自分たちの人生を営めることも非常に大事だと思う。 22ページの表を見ると、病児保育やベビーシッターなどの利用者はアンケートを回答された中では0%なので、実際に利用しながら働いている方はアンケートに回答する余裕がないのではないかと？余裕がないと子育てもおろそかになります。仕事もファミサポなど利用しやすい制度を使って働きながら、余裕をもって子育てが充分できる社会が一番魅力的な地域になるのかなと思います。 ないものねだりになるのかもかもしれませんが、地域によって、子育てがしやすい点が理由で人気が出ている町は、それなりの制度が回っているところかと思います。正直、ファミサポを500円でやってくださる方を探すよりは、ちゃんとした時給を出しシルバー人材として働いていただく方が、ファミリーサポートの制度は整うと思います。 働く側がいないと回らないシステムなので、トータルとして親の働きながら子育てしやすい環境につながるのではないかと思います。
委員	病後児保育の利用はどういったお子さんが多いのですか？
委員	風邪など一時的な病気で、症状が残っているけれどお仕事に行きたい親御さんが、医師の紹介状・診断書を持って行けば、お子さんを預けることができます。まだ認知が少ないのか利用は少数ですが、利用された親御さんは大変喜ばれています。
委員	病後児保育は非常に立派な制度で、国も町に向け支援をしているにもかかわらず、採算が取れていない、利用者が少数なのがあった

	いない。先生がおっしゃったように、女性も社会進出し自己を確立させ、併せて子育てもしっかりしたいという両立がキッチリできることが大事です。 また委員がおっしゃったように、能勢町の魅力とは何かを考えなければなりません。各地域の村おこし町おこしの情報をもとに、例えば水道代を無償にするなど様々な施策を提案しますが、基本的には財源がない、つまり町民からの税収が少ないからできないのが町側の見解で、まさにイタチごっこの状態です。どこかでこの状態を脱皮しないことには、悪循環ののままになります。 そのきっかけの一つが、女性の自立・確立になるのではないかと思います。箕面市では保育士不足が深刻でしたが、6日間の研修を受けたら保育の現場で働ける保育補助員の資格を与える保育補助員制度を作り、保育士でない人も、保育や学童の現場で働けるシステムを作っています。 こういう一歩踏み込んだ施策を行うことや、ファミリーサポートも大阪府の最低賃金まで上げるとサポーターも増えてきますので、保育の質も上がりお母さんも安心して働くことができます。 平和な日本を作るには、いかに女性の確立を行うかにかかると思っていますので、是非、よろしくお願いします。
事務局	皆さんからのいろいろな意見、ありがとうございます。 既存の事業をどうしていくか、次の計画をどうしていくか、いろいろな議論をこの会議でしていきたいと思います。 これができるかできないかの判断はこの場で即答はできませんが、皆さんから意見を頂戴しながら、次の事業に進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。
会長	この辺りでいったん議論を変えたいと思います。皆さんから貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。 では、次の案件④「その他」について、何かございませんでしょうか？ よろしいでしょうか。 それでは、最後に事務局よりお願いいたします。
事務局	1点目、今回策定を進めております子ども・子育て支援事業計画は法的には子ども・子育て支援法に基づいて計画の策定を義務付けられているものですが、それとは別に令和5年度にこども基本法が施行されております。目的としては「次代の社会を担う全てのこど

	もが生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども施策を総合的に推進する」ことを目的に定められたものです。 このこども基本法で市町村こども計画が法に基づき努力義務として定められており、現在の必須となっている子ども・子育て支援事業計画と一体的に定めることができるとされています。今後検討も進めていきたいとは思っていますが、国・都道府県の定めるこども計画との整合性も図りながら進めることとされており、大阪府の計画は現在策定中のため、現在審議中の第3次子ども・子育て支援事業計画に対しての反映ではなく、更に次の第4次計画からの一体的な策定を進めていければと思います。 もう一点、今後のスケジュールです。次回会議は10月ごろを予定しています。内容としては「量の見込み」「各方策」「計画の骨子案」。12月ごろに第3回の会議で計画の素案を固め、1月中旬～2月中旬でパブリックコメントを実施し、2月下旬～3月ごろ第4回会議で計画案を確定させたいと思います。会議と並行して、大阪府との協議も2月、3月には進めていきたいと思います。 事務局からの説明は以上です。
会長	ありがとうございました。他に皆さんご意見なければ、これにて閉会とさせていただきます。副会長閉会のご挨拶をお願いします。
副会長	本日はお疲れ様でした。皆さん自分の生活を見返して、大事なポイントが見えてきたように思います。また、先生の子育てに関する気持ちも充分伝わってきました。 私たち民生委員・児童委員も子育てサロン「にこにこ」をやっており、4か月検診にお邪魔して活動をお知らせしているのですが、子どもさんの数が少なくなっているのもあり、活動自体は細々となっています。ただ、ここをきっかけにお友達が増える、保育所・幼稚園に行かれるときに顔なじみができる、そういったことを大事にしていきたいと思っています。 また「ほっこり」にも参加し各家庭を回り、朝の見守りで挨拶をする、そういった少しづつの活動を通じて、家庭と我々の活動が浸透し、それが子どもたちや能勢町全体につながって一つのものになればいいなと思い日々続けています。 また次回以降この計画が策定されるまで、皆さんのご協力をいた

	だきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。今日はお疲れ様でした。
会長	ありがとうございました。それではこれにて閉会とさせていただきます。 (閉会)